

ふるさと研究ニュース

2010年10月 第16号

所沢市生涯学習推進センター
ふるさと研究グループ



「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

ふるさと研究**秋季企画展**

平成22年10月16日(土)～11月21日(日)

月曜祝日を除く
9時～17時

ところざわ60年

3階企画展示室 ほか

今年こそ所沢市誕生から60年、所沢にもいろいろなことがありました。ほんの72.99km²(市の面積です)の中に立つ「波」とはいえ、その動きは日本全体の歴史の流れと密接に結びついています。その節目節目ごとに、ところざわ60年のあゆみを振り返ります。

会場ではクイズ「ところざわ60年 ところざわ60問」を用意しています。展示を60倍楽しむため、ふるさと所沢の歴史をより深く知るため、ぜひチャレンジしてみてください。チャレンジしていただいた方には、ふるさと研究恒例の「修了証」を差し上げます(全問正解の方には「全問正解」シール付き)。全問正解のためのヒントもあります。大勢の方のご来場をお待ちしています。

【構成】

プレ展示 祝祭の年に ～これまでの周年記念行事～

本会場

所沢市誕生

混乱の中の新生

「生産都市」か「消費都市」か

膨張する所沢 ～「埼玉都民」のまち～

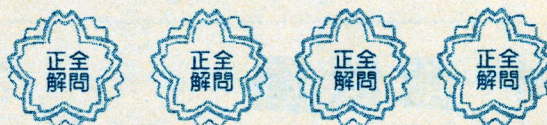
所沢、全国区へ！

過去と、未来と

基地と所沢

はみだし展示 「北所沢駅、御幸町駅」ほか

10月にご覧いただける展示など



ご参加
お待ちしております

連動企画開催中

◆教えてください あなたと所沢

在住、在勤、在学…あなたと所沢とのご縁は何年になりますか？会場の地図に「私は〇年間」という花を咲かせてください。

5年未満のピンクの花から60年以上の赤い花まで、とりどりご用意しています。

場 所	内 容
常設展示室	所沢の歴史・民俗・自然など
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」
南棟3階階段脇掲示板	秋季企画展「ところざわ60年」プレ展示 祝祭の年に 11月21日(日)まで
3階中央棟廊下壁 今月の航空写真	(11月30日までお休みです)

所沢市生涯学習推進センター ふるさと研究グループ

Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp

ふるさと所沢◇関連施設 見どころ紹介 その2 柳瀬民俗資料館

柳瀬民俗資料館には、柳瀬地区で使われてきた農具や生活用具がたくさん収蔵・展示されています。ほとんどは明治時代以降のものですが、明治・大正・昭和の各時代の暮らしぶりや生業のようすがうかがえる民具や用具の数々が展示されています。

場 所 所沢市大字亀ヶ谷278-1

Tel 04-2944-9696

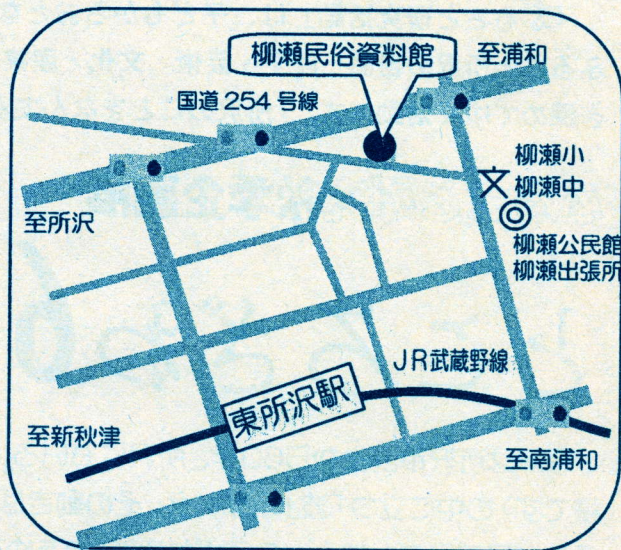
※ JR武蔵野線「東所沢駅」下車徒歩約20分、同駅前から西武バス鶴瀬駅行き乗車「柳瀬小学校」下車徒歩5分、ところバス東路線も利用できます。

開館日時 毎月4日間 第1、4日曜日 第2、3金曜日 午前8時30分～午後5時

※入館無料

必見！ こんな資料があります

- オート三輪車…かつて農作物の運搬等に使用された車。いまでも走り出しそうな車体です。
- 旧柳瀬村役場の復元模型…明治時代後期に、この資料館の場所にあった村役場の復元模型。萱吹き建物は当時の様子をよく伝えています。
- ★ このほか、稲作・麦作で使われる用具や、食器や照明器具などの生活用具もあります。



西武園



ふるさと研究市民トピック vol. 16

所沢が市制施行した昭和25年の出来事の一つに、西武園（現西武園ゆうえんちほか）の開設があります。

西武園は当初「東村山文化園」という名前で開園しました。西武鉄道の堤康次郎が、それまで修養団（天皇崇拜、勤儉努力をスローガンに掲げる修養・教化団体）の施設として使用されていた土地約20万坪を買収して実現したものです。

戦後まもなく、西武鉄道は狭山丘陵周辺の鉄道を整備するとともに、村山・山口貯水池湖畔の観光開発を推し進めます。それが「東村山文化園構想」であり、相前後してできた、村山競輪（西武園競輪）、おとぎ電車、ユネスコ村などは、その関連施設でした。

「東村山文化園」の構想は、今日でいうリゾート開発のような計画でした。ホテルや旅館をつくり、豊かな自然を満喫して、娯楽やスポーツに興じながら保養してもらおうという構想だったのです。現に最初に着手したのが多摩湖ホテル（現在のレストラン・モンヴェール付近）の開業でした。遊園地化したのはその後のことで、すでに豊島園の経営に乗り出していた堤康次郎は、文化園の中にも次々と遊戯施設を建設していきました。

西武園は、現在は都県を問わず近隣を中心に多くの人びとの憩いの場となっていますが、当初の構想は今とは違うものでした。

※ 参考文献 野田正穂「西武鉄道と狭山丘陵開発」
（『東村山市史研究第13号』）